

北九州市制50周年記念 北九州市立文学館第13回特別企画展

# 働き、書いた



## ——北九州の職場雑誌展

2012年10月20日(土)～2013年2月11日(月・祝)

開館 = 平日/9:30～19:00 土日祝/9:30～18:00

[入館は閉館の30分前まで]

休館 = 月曜日、年末年始(12/29～1/3)。ただし12/24、1/14、2/11(月)は開館、翌日休館。

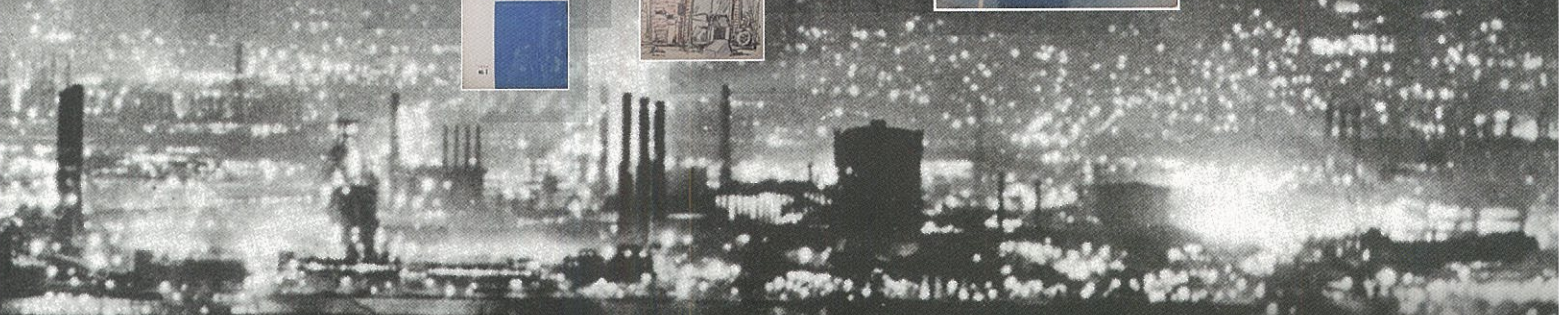
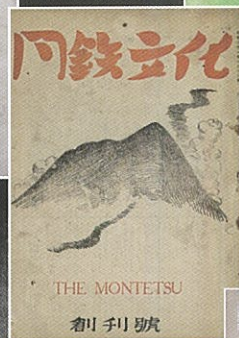
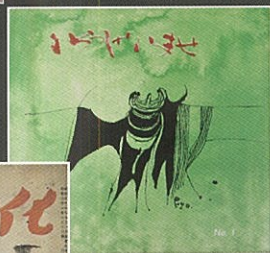
料金 = 一般400円 中高生200円 小学生100円

※年長者施設利用証提示者の割引は2割

※療育手帳提示者、身体障害者手帳提示者、精神障害者保健福祉手帳提示者及び付添人(身体障害者の方の付添は本人が4級以上)は無料

※下関市介護保険被保険者証、公的機関が発行した福岡市、熊本市、鹿児島市の65歳以上の市民であることを確認できる証明書提示者の割引は2割

- ◆主催 北九州市立文学館
- ◆協賛 松竹株式会社
- ◆後援 朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送



北九州市立文学館  
Kitakyushu Literature Museum

工場群の夜景は今村元市編「ふるさと」の思い出写真集「明治、大正、昭和」(1982 国書刊行会)より

# 働き、書いた—北九州の職場雑誌展



北九州地域のさまざまな職場からは雑誌が刊行され、そこには文芸が息づいていました。

明治末から高度経済成長期にかけて産業、流通の一大拠点として発展した北九州。その発展を働き支えた人びとの手によって、多くの職場雑誌が生み出されました。これは、北九州における文化資産の一つといえます。

本展では雑誌の展示を通じ、北九州という場で生まれた職場雑誌文化の足跡を、文芸を中心に辿ってゆきます。働く人々が生み出した言葉たちにふれ、耳を傾けること—それが今日の北九州における、文芸文化のルーツを考える機会になることを願って。



## くろがね 創刊号

(八幡製鐵所 1919.9 八幡)  
製鐵所時報。最も早い時期に刊行された社内報で現在も刊行中。後には岩下俊作、佐木隆三が作品を発表。(新日鐵住金株式会社所蔵)



## 門鉄文化 創刊号

(門司鉄道局総務部労働課 1946.9 門司)  
門司鉄道局機関誌。門鉄勤務の星加輝光、稲田定雄らが中心的な書き手として活躍。



## 製鉄文化 創刊号

(八幡製鐵所親和会教養部 1949.4 八幡)  
職場内親睦団体発行の文化誌。創作研究会や川柳くろがね吟社など複数のサークル会員が作品を寄せ、50年以上に渡って刊行された。



## 紫苑 創刊号

(井筒屋百貨店・井和会 1949.8 小倉)  
職場内親睦団体、文化部の機関誌。創作の他、映画評やエッセイなど文化全般の記事を掲載。



## 繫留索 創刊号

(繫留索編集部 1962.3 小倉から戸畑、のち門司)  
職場同人誌。海を職場にする海員、海運労働者やその家族などが主な書き手であり、海や船、海上労働に関する創作が多い。



## こだま 2号

(日立金属工業若松工場日立会文芸部 1958.8 若松)  
職場内親睦団体の文芸部誌。執筆者の堀勇蔵はのち、「去年、国道3号線」で第68回直木賞(1972年下期)候補に挙がる。(福岡市文学館所蔵)



## うたのなかま 創刊号

(安川電機労働組合内安川電機文学サークル 1949.5 八幡)  
労組内サークル誌。表紙及びカット絵は長末友喜。小説、詩に短歌、俳句などを掲載する文芸総合誌。(法政大学大原社会問題研究所所蔵)

※表の雑誌書影のうち、「製鉄労働者」「うたのなかま」「野獣群」は法政大学大原社会問題研究所所蔵。「安川文学」は株式会社安川電機所蔵。

### 関連イベントのご案内

## 松原新一さん 開会記念講演

- 日時/2012年10月20日(土) 11:00~12:00
- 講師/松原新一さん(久留米大学名誉教授)
- 演題/「戦後」という時代の空気  
—1950~60年代の職場雑誌の位相について—
- 会場/北九州市立文学館
- 申込/不要

## 佐木隆三 名誉館長 講演会

- 日時/2012年11月23日(金・祝) 13:30~15:00
- 講師/佐木隆三(北九州市立文学館名誉館長)
- 演題/「門鉄文化」と「製鉄文化」
- 会場/北九州市立文学館
- 定員/80名(先着)
- 申込/11月3日(土・祝)より電話受付(093-571-1505)

## 映画「この天の虹」上映会・鼎談

- 日時/2013年1月22日(火) 13:30~16:00
- 会場/井筒屋新館9F バスホール
- 定員/350名

上映作品 この天の虹 (監督:木下恵介 出演:久我美子、川津祐介ほか 松竹 1958年制作 106分)

鼎談 山下敏克さん(創作研究会「周炎」編集長)  
菅和彦さん(新日鐵住金八幡製鐵所開発企画室室主)  
今川英子(北九州市立文学館館長)

- 申込/往復はがきに代表者の住所、氏名、電話番号、同伴者(1名まで)の氏名を明記の上、北九州市立文学館「上映会」係まで。1月8日(火)締切(当日消印有効)。

## 文学講座

- 第1回 11/10(土)
  - ① 小林慎也さん(梅光学院大学客員教授)
  - ② 山下敏克さん(創作研究会「周炎」編集長)
- 第2回 11/17(土)
  - ① 河野正彦さん(詩誌「沙漠」代表)
  - ② 波佐間義之さん(九州文学)編集/発行責任者)
- 第3回 12/1(土)
  - ① 古谷龍太郎さん(川柳くろがね吟社社幹)
  - ② 折世凡樹さん(八幡製鐵所広報部OB)
- 第4回 12/8(土)
  - ① 木下圭子さん(北九州森鷗外記念会理事)
  - ② 深田俊祐さん(元労働作家)

- 時間/各回14:00~16:00 (①14:00~14:55、②15:05~16:00)

- 会場/北九州市立文学館
- 定員/各50名(先着)
- 申込/10月18日(木)より電話受付(093-571-1505) 全4回にお申込みいただいた方には本展の図録を進呈。



〒803-0813  
北九州市小倉北区内4-1  
TEL.093-571-1505 FAX.093-571-1525  
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

- JR小倉駅より徒歩15分
- JR西小倉駅より徒歩10分
- 勝山公園バス停より徒歩1分
- 北九州市役所前バス停より徒歩2分
- 小倉北区役所バス停より徒歩2分
- 北九州市都市高速大手町ランプより2分
- 駐車場は文学館最寄りの有料駐車場をご利用下さい。

